

令和3年5月25日

令和2年度 特定非営利活動法人UNE 事業報告書

【本年度の事業実績 総括】

特定非営利活動法人UNEの活動10年目の年、障がい者のしごと起し、高齢者の生甲斐づくり、生活保護者の居場所づくりを通して地域(一之貝及び荷頃地区)の活性化を図ることを目的に各種補助金、助成金事業を活用し以下の事業を実施した。

昨年1月から猛威を振るい始めたコロナ禍の影響で、宿泊、飲食、そして加工品販売は振るわず、売り上げが激減したため、国からは持続化給付金、家賃支援給付金、経営継続給付金、長岡市からは設備補助金、職場実習支援金、そして民間のJ-COIN から送迎車両、NHK わかば基金からクロモジ細断器械、真柄財団からかき氷器購入助成金などをいただき、また、日本政策金融公庫からは無利子の長期借入金の融資をいただくなど公共の支援をいただき困難な時期を切り抜けられたと同時に、アフターコロナのための新事業開始の準備も出来た。

また、これまでの農福連携活動が認められ、9月には新潟県農業会議会長賞を、そして3月にはノウフク・アワード2020を全国16団体の1つとして受賞した。

実績報告に関しては定款に記載している下記13事業を順番に報告した。

1. 地域活動支援センターの運営事業
2. 農業生産・加工事業及び販売
3. 農業サービス事業
4. 障害者の仕事となりうる各種請負事業
5. 農村と都市との交流事業
6. 地域活性化事業
7. 農村からの情報発信事業
8. 農産品特産品の料理提供で障害者就労を創出する飲食事業
9. 送迎事業
10. 障害者の仕事となりうる各種人材派遣事業
11. 農家民宿事業
12. どぶろくの製造及び販売
13. その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

【事業実績】

1. 地域活動支援センターの運営事業(長岡市補助事業)

① 障がい者

月曜から金曜までの週5日、一之貝と千秋が原信濃川河川敷を活動場所として農作業、農産加工、採取作業、飲食宿泊作業を中心にした活動をした。

令和3年度「地域活動支援センターUNEHAUS」の障がい者の利用者総数は、1,957人日、開所日数は236日で、1日の平均利用者数は8.3人であった。その他新規の登録者は4名であった。

② 高齢者のたまり場

給食事業では近所の高齢者はじめ栃尾市街地から、そして高齢者団体等が見学を兼ねて訪問され延べ人数は1,259人であった。

③ 生活保護受給者

7年間実施している生活保護者のボランティア活動の一環で令和2年度は5名の受入れを実施、週4回UNEの活動を手伝って貰うべく、長岡駅東口から送迎しUNEHAUSに集う障がい者、高齢者と共に働き活動した。障がい者や高齢者に対しては、作業の指導や送迎時の運転など、職員同様の役割を担ってくれた。

④ 市民ボランティア

UNEHAUSで活動した有償ボランティア(障がい者、生活保護受給者、高齢者は総数 12 人)の延べ参加日数・人数は 870 人日あった。

なお、生産、採取事業に関しては、今年度より障がい者に合った作業:ノウフクジョブを創設するためノウフクレート、ノウフクメンバーという指標を設定し、それぞれの作業の「見えるか化」に努めたことで、今後力を入れていく作業・事業がなんであるかが具体化してきた。

☆ノウフクレート = (総売上 - 経費:消耗品、器械購入費) ÷ 総労働 時間 × 人員

☆ノウフクメンバー = 総労働 時間 × 人員 ÷ 作業回数

◎ノウフクレート 500 円、かつノウフクメンバー2人 以上の作業をノウフクジョブとして認定し、その後、より高い数値を目指して改善を重ねよう努めたい。

2. 農業生産・加工事業及び販売(共同募金助成金を活用)

☆平成 25 年 2 月 28 日 NPO 法人で県内初の認定農業者となる

① 田んぼ(一之貝地区)

コシヒカリ BL の苗は JA から購入、それ以外の品種は岩村農機から芽出しをしてもらったものを UN でプール育苗方式で仕上げたが、十分に水が溜まらず苗の生長が遅れ、田植は 2 週間遅くなったことで収量にも影響が出た。

加えて 7 月終わりまで雨が降り続いたため稲は徒長して倒伏が相次いだ。また、猪による獣害にも悩まされ、5 月から畔を荒らされ、8 月の落水後はほ場内に侵入、駆け巡り、稲をなぎ倒して4つのほ場、計 20a ほどの猪被害が発生した。猪の被害を受けた米には獣臭さが残るといわれていたがそれは見られなかった。

米の販売は JA 越後ながおかに 10 俵のみ供出し、他は UNE で直売、通販にて販売した。

稲作全体の総労働時間は 446 時間、総労働人員は 223、延べ労働時間人は 788 時間人

ノウフクメンバー 1.8 人、ノウフクレートは 111 円。

✚ コシヒカリ BL エコ・5-5 (47a)

今年の BL 種は稈長の伸長の傾向がみられ、また、上記気象条件も重なり倒伏が相次いだ。カメムシ防除も行ったが被害が顕著で調整にて色選を 2 回行った。収量 1,980kg、33 俵、反収 7 俵

✚ 亀ノ尾 (12a)

どぶろくの原料用米、圃場内に猪が侵入し、4a ほど被害が出る、長稈化により倒伏も相次ぎ、収穫時立っていたのは 4 割ほどであった。収量 210kg、反収 3 俵

✚ 大正糯 (59a)

栽培面積を拡大し「ぬれおかき」の原料米としての 50 俵の注文に応じようと増産を計画したが、長稈化による倒伏、猪の侵入も 5 ほ場で確認、10a ほどなぎ倒された。収穫できた 17 袋 (510kg) を越路の神谷生産組合に委託し餅にしてもらい販売した。また、21 袋 (630kg) を ぼんしゅ館へ「ぬれおかき」の原料米として販売した。

収量 1,300kg、22 俵、反収 3.8 俵

✚ 従来コシヒカリ (33a)

有機栽培を目指すも、夏季の雑草に負ける。各種除草機も追いつかず、生育が阻害された。また、最も高い位置 (標高 430m) にある圃場に作付けしたため、雨水、湧き水のみ入水で、畔を獣害で荒らされるなどしたため保水も良くなく、村の貯水池よりも標高が高いため引水も利用できず、水の管理に煩わされた。バインダーで収穫しハザかけを行った。収量 300kg 反収 1.5 俵

✚ 農林 1 号 (10a)

今年から本格的に作り始めたコシヒカリの父の品種。育苗の遅れから田植の遅れになるも、分けつは十分。品種特性で稈長は抑えられ、生育は順調だったが、落水後、圃場内を猪が縦横無尽に駆け巡り、7a ほどに被害が発生した。新年度は作付面積を 44a に増やし、UNE のコシヒカリに次ぐ標準米として一般販売を行う。収量 120kg、反収 2 俵

✚ 食味検査への出展

長岡のうまい米コンテストに出品したコシヒカリ BL エコ・5-5、従来コシヒカリ、農林 1 号の 3 品種は、従来コシヒカリが 3 次審査に残るも、最終審査に進出することが出来ず 50 位となった（整粒歩合 76.85、食味値 77）。他 2 品種は 2 次審査落ちとなった（整粒歩合 69.7、65.9 食味値 82、76）。いずれの品種も整粒歩合が低く（70%前後）未熟粒が多く含まれていた。倒伏などが原因だったと考えられる。

✚ クロモジ試験圃場

耕作放棄地を活用したクロモジの栽培（6 年目）

✚ ヨモギへの転作

新たに 13a のザル田をヨモギへと作付け転換した。

② 畑（千秋地区及び一之貝地区）

☆平成 28 年 3 月 千秋が原：河川敷の使用許可＝河川協力団体に認定

★『福祉・市民 体験農園』OASIS.R に今年度は一般 2 名、市民協働、原信労組、連合中越から利用してもらい、利用面積は 12a ほどであった。

原信労組は毎週 1 日～2 日、6 人～7 人ほどの作業

連合中越は秋ジャガイモを栽培し、月 2～3 回の作業に都度 20 名ほど参加し、収穫したものをフードバンク新潟に寄贈しました。ウネも作業の手伝いとして都度 5 名ほど参加した。

★ 4 月と 7 月に市民参加のイベント「クウカイ」を実施し、それぞれ 30 名の参加があった。

★ 新規の企画として、保育園園児に有料で農業を体験してもらった。70 名が参加して 5 月にサツマイモの苗を植え付け、9 月にそれを収穫した。

★ 昨年の大雨で堆積した運動広場の土砂を、ウネの畑とその周辺 120a に埋め立てをして広い畑ができた。2021 年度にはセブンイレブン財団の助成を受け、日赤病院から望む畑を緑豊かなかぼちゃ畑や黄色の菜の花で埋め尽くしたい。

ノウフクレート：（総売上額－経費）÷（延労働人数×時間）

（371,616 - 409,802）÷（457.5）＝△83 円

ノウフクメンバー：（延人時間 457.5 人時間÷延時間 158.25）＝2.9 人

③ ヨモギ

昨年、新潟県の提案で 4a よもぎを栽培、8 月下旬に収穫し乾燥、破碎、そして 9 月中旬に薬用酒メーカーに全量出荷（200kg）しそれなりの成果を収め、JA 越後ながおかの座談会や新聞などで紹介された。

それを受け、昨年 9 月下旬、稲刈りを終えた田んぼ 2 枚、及び千秋が原河川敷の畑、計約 34a 苗を植付け、今年度は約 1t のヨモギを出荷した。米に代わる作物として有望であるが、引取先の数量が限定されているので現時点ではこれ以上の規模拡大は望めないが、今後、引取先を開拓すれば耕作放棄された田んぼに栽培することが可能であると思う。

- ミヤトウ野草研究所
- ツムラ順天堂
- 越後薬草
- 薬用作物産地支援研修会

④ 花ハス

新潟県そして JA 越後ながおかの提案で、これまでどろんこ運動会の会場として利用してきた堂田地区の田んぼ 3a に花ハス苗を植え、花ハス栽培を試験的に開始した。8 月のお盆時期から 8 月末までに 300 本程の花が収穫出来、関係者に贈る。9 月末に蓮台 200 本程収穫しビニールハウス内で 2 週間ほど乾燥、その後 100 本ほど販売出

来た。

通常、JA 越後ながおかの集荷場に早朝出荷、そこで荷が纏められその後東京の大田花木市場に出荷されるが、早朝の収穫、出荷作業には対応が難しいので、蓮台の栽培、花を観光資源として活用する方向で今後検討したい。

⑤ 加工

☆平成 24 年 11 月 加工場営業許可取得

🌈 くろもじ

平成 30 年 3 月より販売を開始したピローミスト、フローラルウォーターも含め、くろもじ製品の重点的な製造、販売を行った。新たな販売先として「栃尾道の駅」、セレクトショップ「わがんせ」「たつまき堂」、アロマショップの「カモミール」等、その他原材料として「ナジラテ」にくろもじの葉、ジェラートの「雪鹿」にカットした枝の提供を始めた。

熊本大学薬学部の和田先生からくろもじの葉と枝の注文 6kg が有り、くろもじの葉に中性脂肪を抑制する効果が見られそうだとの話があった。その他、くろもじを与えたラットの状態が落ち着いている事も研究材料として可能性があるとの話を伺った。搾油を行った後の残渣については染め物の染液としての価値が有りそうなので、来年度販売できるように準備を行った。新潟駅南口のイベントスペースで開催されたお茶フェス 2019 に参加しくろもじ茶のアピールを行うと同時に同業他社との横の繋がりも生まれる中で、それらの紹介で千葉のアロマショップと付き合いが始まった。

製造に関して、搾油は納谷と倉茂で担当、お茶は倉茂と継男さんと納谷で終礼を毎日行う中で翌日の作業やその後の段取りを話し、コミュニケーションと作業の効率化を図った。課題としては現場担当者の出勤が不安定な事や作業所内のクリンリネスが有る。その他、素材の在庫の仕方の改善等行い経費の削減に努めた。

🌈 梅干し

昨年の仕込み 160kg から今年は 300kg の仕込みに増やした。採取する現場班と仕込む加工班の仕事の調整を行い、無理無駄を抑制した結果、採取した梅の廃棄が起こらなかった。

仕込み時の重しが甘く、100kg 程度カビを発生させてしまい廃棄してしまった。

使用する赤紫蘇は千秋の畑と一之貝の畑で自家栽培を行った。10m×30cm 程度の畝を一之貝で 2 畝、千秋で 2 畝作付けしたが 300kg 仕込むには 2 割程度足りなかった。又、梅を入れ込む時期が遅くなってしまい、干す作業が滞ってしまった。紫蘇を投入する時期はまだ紫蘇が十分発育していないので、作付け自体は 2 倍程度に増やす必要がありそう。

担当者（ボランティア）の出勤が不安定で、仕込みや仕上げ等の情報の共有化が課題として残った。

🌈 その他

例年製造している笹団子、神楽南蛮味噌については売り先が無く競合他社も多い為今期はほとんど製造しなかった。又、昨年作成したおかず味噌も現場の体制が整わず今年度は着手できなかった。

⑥ 販売・イベント

□ 中沢直売所

売上と作業量とのバランスから根本的な見直しが必要とのことで今年度の開所は見送った。

野菜を作った近隣農家が直接ウネにもって来た分については UNEHAUS で販売した。

□ JA 越後ながおか「なじら〜美沢店」への出品

梅干しを 10 月より販売、11 月より大正餅も販売した。

□ 各イベントへの参加

アオーレ（山菜マルシェ、酒の陣、ドイツフェスト、市民活動フェスタ、オーガニックフェスタ）千秋が原ふるさとの森クラフトフェア、立川競輪感謝祭、新潟駅南口でのお茶フェス、各イベント参加

□ どぶろくの販売

道の駅 R290 は一もにー及び各種会合への引き出物として販売。販売先が先細りする中で新たな開拓が必要だが、市場の規模を含め中々難しい。又、既存の酒販店からも注文が入らなくなってきている。理由は様々あるかと思うが、小売店からは飲食店等への払い出しが難しい事も理由として上げられた。

2019年2月に受賞した全国どぶろく研究大会準優勝の効果は半年ほど続いた。

⑦ 米

長岡のセレクトショップ「たつまき堂」と協働した販売を始めた。次年度以降の作付けや栽培の仕方も含め検討し高付加価値な米作りが必要な事が分かり次年度以降の取り組み課題としたい。

昨年度一年間休んでいたノウカースというお米販売のサイトへの登録を行ったがほとんど注文が入ってこなかった。令和2年度以降は登録を解除し、新規の販売サイトを検討したい。

⑧ 大正餅

大正餅の販売を昨年度の260袋から792袋へ拡充した。主な売り先は新潟直送計画とふるさと納税返礼品、ぼんしゅ館で計画し、全て完売したが商品自体に不具合が発生し、ぼんしゅ館とふるさと納税返礼品からクレームがきた。ぼんしゅ館からは100袋の返品が有りそのまま残ってしまった。令和2年度には餅付きの委託先変更を行う。

ぼんしゅ館から大正餅を使った濡れおかきの企画を頂き、今年度は3袋の試作を行った。2019年度でのお付き合いはできなかったが、試作の結果が良ければ年間で50俵の受注が見込める。

⑨ 新規取り扱い店舗への働きかけ

小千谷市の動物病院、新潟市の「道の駅ふるさと村」、新潟市のハーブティー販売店、首都圏の販売店等へ営業を行ったが、具体的な成果にはつながらなかった。

⑩ ふるさと納税返礼品、新潟直送計画を活用した Web 販売の拡充。

令和元年度から長岡市のふるさと納税返礼品にどぶろく、くろもじ茶、ピローミスト、宿泊、餅の詰め合わせが採用され、返礼品については餅詰め合わせが一番多く74件あった。

その他、昨年度来進めている新潟直送計画へも出品を継続し餅については贈答用で54件の受注があった。

3. 農業サービス事業

🌈 笹

今年度は採取方法を変更し、笹の葉だけの採取から枝約40センチをカットしてきて、それを一之貝のご婦人たちがウネハウスでカットして生理していただいた。

おかげ様で効率よく作業ができ、28,150枚110,895円の売り上げとなった。

ノウフレート: (総売上額-経費) ÷ (延労働人数:時間)

(110,895 - 2,640) ÷ (192) = 564円

🌈 モクロモジ

枝から葉っぱが落ちてからの作業となりなかなか晴天がなかったが、新しく軽井沢方面からアタックした林から満足する量を採取することができた。

2782キロ306,097円の売り上げとなった。大型トラックに詰めるだけ詰めたが限界に近いためこれ以上採取しても出荷できないと思う。

ノウフレート: (総売上額306,097円-経費9,877円) ÷ (延労働人数:時間 241) = 1,227円

ノウクメンバー: (延人時間 241 ÷ 延べ時間 48) = 5.0

4. 障がい者の仕事となりうる各種請負事業

☆地域に根ざした請負作業: 雪下ろし、農作業の手伝い、草刈り

🌈 雪下ろしは12月中旬からの大雪により、年越し前から雪下ろしを行い、年明けからも連続して依頼が舞い込んだが、1月後半からは降雪も落ち着き、雪下ろし依頼は減少した。UNEには今年22件の雪下ろし名簿登録があり、一之貝荷頃地区14件、栃尾市街地6件、長岡市街地2件だった。名簿登録のうち、実施しなかった家、2回、3回実施した家とあったが、23件の雪下ろしを行い、売上として576,700円を得た。

総労働時間43.5時間、総労働人数133人、延べ労働時間212時間。

ノウクメンバー: 4.9人、ノウフレート: 2,720

🌈 一之貝の高齢者宅の障子の張替え、除草作業、墓掃除などの地域の便利屋としての活動

コメントの追加 [家老1]: ノウフレートの記載もお願いします。

- ✚ アパートの清掃及び修理、荷物の片付け(家老ビル)等
- ✚ 道路除草や剪定補助などの造園業請負、計 20 日間、73 人/日【前年度計 37 日間、123 人/日】の作業を行った。(万松園) 前年度からの日数減少は剪定作業の簡略化、本数減少により日数が半分程度に収まった。また、冬囲いの作業もなかった。売上として 674,650 円を得た。
総労働時間 145 時間、総労働人数 73 人、延べ労働時間 511 時間。
ノウフクメンバー:3.5 人、ノウフクレート:1,031。

5. 農村と都市との交流事業

- ✚ 各種イベントの開催
信濃川河川敷でのクウカイを 2 回実施してそれぞれ 30 名の参加を頂いたが、新型コロナ対策を十分考慮し、問診表の記入、検温、密の回避を行ったうえで実施した。
- ✚ くらもじを切り口とした交流事業
くらもじを切り口として、山にくらもじを採りに行って、くらもじ茶を作る体験教室を自主事業として 4 回、他業者が主催する形で 2 回行った。地域資源を活用した交流事業としてだけでなく、くらもじを通して荷頃地区を発信するよい事業であるため大切に育てたい。
- ✚ 視察研修、フォーラム参加
11月に長野県、3月に福島県に農福連携の視察研修を行った。

✚ 学生インターン生受入

今年で3年目となる立命館大学の学生のインターン生を 8 月に 2 名 1 組、受け入れた。一之貝に来訪してウネで活動する事で地域の事や農の事、それらの課題を肌感覚で感じてもらえた事は非常に収穫だった。

6. 地域活性化事業

① 協議会事業

- ✚ 平成 28 年度 5 月 31 日より活動を開始した「北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会」の事務局を令和元年度も担当した。
- ✚ 協議会事業として農林水産省の農山漁村振興交付金事業の農福連携推進事業を活用し、千秋の畑や一之貝の田畑での農福連携事業を進めた。主には、佐野職員がアグリジョブトレーナーとして活動できるように育成する費用や、地元農家の技術指導講師代、ボランティアの送迎のガソリン代と運転手アルバイト代、事務所経費等に活用した。
- ✚ 一之貝での共同草刈り、道路普請、水路の江浚、愛村デー、北荷頃の排雪溝掃除、愛村デーなどにも積極的に参加した。

② 資源回収

一之貝、軽井沢、北荷頃の 3 地区で奇数月に行ってきた資源回収であったが景気悪化による新聞紙、金物等の価格の暴落に加え、長岡市の奨励金がキロ 5 円から 3 円と 4 割も削減されてしまった。故に資源回収しても大幅な赤字になるため 5 月をもって中止をした。

高齢者世帯や体の不自由な方にとっては集積場所まで運ぶという難儀なことをさせてしまうこととなることや、その方々の見回りということもできなくなり大変申し訳なく残念に思っている。

7. 農村からの情報発信事業

① 視察研修受け入れ、講演等

立命館大学から2名のインターン生を受け入れた。また、長岡市小国コミュニティーセンター主催の地域福祉を考える講座、及び三重県名張市主催のノウフク連携の推進を考える講座の講師として代表理事を派遣した。

③ 広報

新潟日報、とちおタイムス、日本農業新聞、JAのE-NA、普及センターだより、にごろ民館だよりなどに報道される。

④ 広報誌等の発行

「うね日和」として毎月発行。月刊発行部数900部にUNEのイベントや活動を紹介する記事を掲載した。約150通を郵送、荷頃地域全戸には市政だよりと一緒に区の厚意で、荷頃地域全戸に配布した。

UNEのHP、Facebookにてイベント、日々の出来事などを随時発信した。

8. 農産品特産品の料理提供で障がい者就労を創出する飲食事業

① 農家レストラン UNEHAUS

☆平成25年3月 飲食業の営業認可取得

🚩 1日平均食数は約16食3,896食。開業日数は239日あった。コロナ禍の影響で昨年よりも1日当たりの人数が2名減った。

🚩 給食に訪れた方は、1,022人 その内、一之貝の住人は延428人、一之貝以外の市内の方は540人で約半分であった。

🚩 交流人口を増加させるために積極的な広報宣伝活動：地域・長岡市街からも集客を行った。来客者数(3,896食の内、スタッフを除いた数)の総数は1,022人で全体の26.2%、その内訳は村内31%、村外の市内52.8%【50%】、県内2.6%、そして県外2.6%であった。海外からは0人であった。

🚩 調理員は、一之貝から1人、北荷頃から2人の計3人の方が、週2回～3回を目途に給食作りに来て貰っている。

🚩 給食事業は、毎週平日月～金、12:15～12:45実施した。

② キッチンカー

☆営業許可免許所得 2021年2月22日)

農林水産省のコロナ禍での補助事業を活用して独自設計による積載型のキッチンカーを製造した。

3月16日よりアオーレ長岡ナカドマにて弁当販売を皮切りに運営を開始した。

9. 送迎事業

J-COINという財団より助成をいただき、新たにRV(トヨタノア)の新古車を購入し「はこぶ〜ね」と命名し、9月より運用を開始した。

☆日常のボランティアの長岡駅〜一之貝間の送迎、買い物送迎(毎月第2、第4木曜日午後)、通院送迎(随時)、温泉送迎等を通じ地域の高齢者の見守り、生活支援等を実施した。

🚩 買い物送迎(川崎パルス及び美沢アクロスプラザ)及び通院送迎人数を実施、登録者数17名、送迎回数157回、延べ送迎者数284名(荒井医院、中央病院、日赤病院他)

10. 障がい者の仕事となりうる各種人材派遣事業

農山漁村振興交付金事業で立ち上がった北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会の事務局をUNEの事務所内に昨年同様併設すると同時に、代表理事が協議会の事務局長を兼任した。

その他、協議会が実施するイベントにUNEの市民ボランティア（障がい者、高齢者、生活保護受給者）を派遣した。

11. 農家民宿事業

☆平成28年11月 UNEHAUS簡易宿所営業許可取得

☆平成30年6月 KS☆HAUS民泊営業許可取得

- ✚ 簡易宿所としてUNEHAUS、民泊施設としてKS☆HAUSを運営、宿泊利用客及び稼働日数は、UNEHAUS 109人 33日、KS☆HAUS 69人 15日 合計 178人、48日であった。
- ✚ 昨年度に引き続き、Airbnbと楽天トラベルに掲載した。何か近隣でイベント等がある時に宿泊予約が入る他、ゴールデンウィークやお盆期間等はそれなりに稼働したが、その他の時期の稼働が少なく課題として残った。来訪動機となるような仕掛けの創出が必須。
- ✚ KS☆HAUSへの外国人の宿泊は前年よりも少なかったが、新たに新潟大学の栃尾ボランティアチームが栃尾まつりの際に利用してくれたので、毎年の利用が期待できそう。
- ✚ UNEHAUSへの宿泊については人員の確保が不安定という課題が上がった。素泊りについてはセキュリティの関係も有り中止し、2食付きのプランのみで営業を行うようにした。夕食と朝食のメニューも夕食は栃尾のおぼろ豆腐、油揚げを中心に、朝食は卵かけごはんをメインにしながらかからない形に変更しお客様の満足度の向上も行った。現場担当者の負担は軽減されたが、担当する人員の確保が難しく、価格と価値のバランスが悪く感じるので、令和2年度以降価格の見直しを行い、担当者へのリターンを明確にしたい。
- ✚ 楽天の民泊サイトに掲載したが、集客にはつながっていない。
- ✚ 一之貝の古民家の活用を新規事業として計画を開始したが草案までには至らなかった。同古民家を障がい者のグループホームとして活用する案も検討したが、延床面積が大き過ぎて大がかりな施設改良が必要のため方向性が定まらぬままになってしまった。
- ✚ 1月末からのコロナウイルス禍でKS☆HAUSへの宿泊3グループのキャンセルがあった。今後1年くらい宿泊客は望めないのではと懸念している。
- ✚ 夏の猛暑の時期はエアコンが必須であったが、各施設のエアコンが老朽化していて使用できなかった。令和2年度最低2台のエアコンの入れ替えが必要かと思うがコロナウイルスの影響で宿泊客が望めない現状では厳しい。

12. どぶろくの製造及び販売

☆平成27年6月 酒類販売許可取得

☆平成27年10月 その他の醸造酒製造許可取得

☆平成29年3月 酒類ネット販売許可取得

令和2年4月から令和3年1月までの出荷量は235.8リットルで昨年同期の514.8リットルを44%も下回った。

金額ベースでは1本2,000円として794,000円昨年同期は1,433,000円であった。

新型コロナの影響で栃尾の道の駅が休業したり、小売りが廃業したりしてウイルスの影響をまろに受けた。感染が下火になった8月から11月までは昨年くらいまで回復したが12月からの第3波の感染拡大で、忘年会、新年会が行えず非常に苦戦した。

新規での販売となる長岡花火館、市内小売、飲食店に期待したい。

再掲になるが酒の陣、全国どぶろく研究大会、グリーンピア津南等でのイベントが中止となりアピールの機会が失われたのが痛かった。今年は雪が多かったのでどぶろくの雪中貯蔵を行っている。3月にはまろやかに熟成した雪中貯蔵どぶろくの試飲会や、ウネのコメの試食等とコラボして、友の会の拡大につなげたい。ちなみに令和2年度のどぶろく友の会会員は28名であった。(昨年は8名)、会費は年10,000円であり、5本のどぶろくを受け取ることができる。どぶろく友の会は売上金額の35%を占めた。

2020年10月から酒税法の改訂によりどぶろく1,000リットルあたりの酒税が140,000円から120,000円に減額された。720ミリリットル1本では100円から86円に下がった。

13. その他、第3条の目的を達成するために必要な事業 特になし

14. 管理関係

☆平成31年3月 長岡市内初 認定NPO認証

- ✚ 不必要な残業などをさせない、年休の適正取得等を年度当初の目標に掲げ、労務管理を徹底して行い所期の目標値は達成した。
- ✚ 平成30年度より新会計ソフト MAI (ソリマチ会計)を導入すると共に、損保ジャパンの助成金を受け、スバル会計事務所より会計コンサルタントをしてもらい、会計事務の簡易迅速化が図られた。
- ✚ 就業規則、各種規程等の整理を行った。
- ✚ 出勤時の職員、スタッフの検温及び記録を行った。

以上